

# し しょう か 四照花

第106号

## ～新年度を迎えて～

医療法人社団為王会理事長 尾形 享一

私たち為王会は昨年11月、開院40周年を迎えました。塩谷町で開院して10年、現在の矢板市に移って30年、地域の皆さまに支えていただきました。深く感謝申し上げます。

私たちは開院以来、一貫して「医心一体」を理念として活動してまいりました。「医心一体」とはどのようなことでしょうか？それは、地域の人たちのために心温まる医療を提供することです。「医は仁術」とよく言われますが、私たちもそれにならい、常に「温もりのある、心のこもった医療をする」ことを心がけて、診療にあたっております。

また、平成6年から医療と連携した介護事業にも取り組み、地域の皆さまがこの地で末永く生活していくお手伝いができるよう努めてまいりました。

さらに昨年8月、那須塩原市のJR那須塩原駅西口に新しく尾形クリニック那須を開業いたしました。慢性腎臓病や腎不全の患者さんが受けられる人工透析治療を中心とした医療、さらに健康診断などの予防医学にも力を入れて取り組んでおります。

厚生労働省は平成37年（2025年）をめどに、「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援」を目的に、

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、地域の包括的な支援・サービスの提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しております。

このシステムは①住まい②医療③介護④予防⑤生活支援の五つで構成されています。

私たち為王会は一医療機関ではありませんが、初代理事長の尾形直三郎は、地域の皆さまが、この地で、どうしたら永く健やかに生活できるかを熟慮した結果、「医療だけでは不十分」との結論に達し、現在のような医療と介護の包括的なサービス体制の構築にたどり着きました。20年以上前から、地域包括ケアシステムに近いものを実践してきたことになり、私たちの取り組んできた方向性は間違っていなかったと確信しております。

新年度を迎え、私たちの為王会グループも新しく医療・介護スタッフ19名を迎えました。行政、医療機関との連携を強化し、スタッフと力を合わせ、為王会グループを盛り上げ、地域医療、介護事業の充実に邁進していきたく思います。

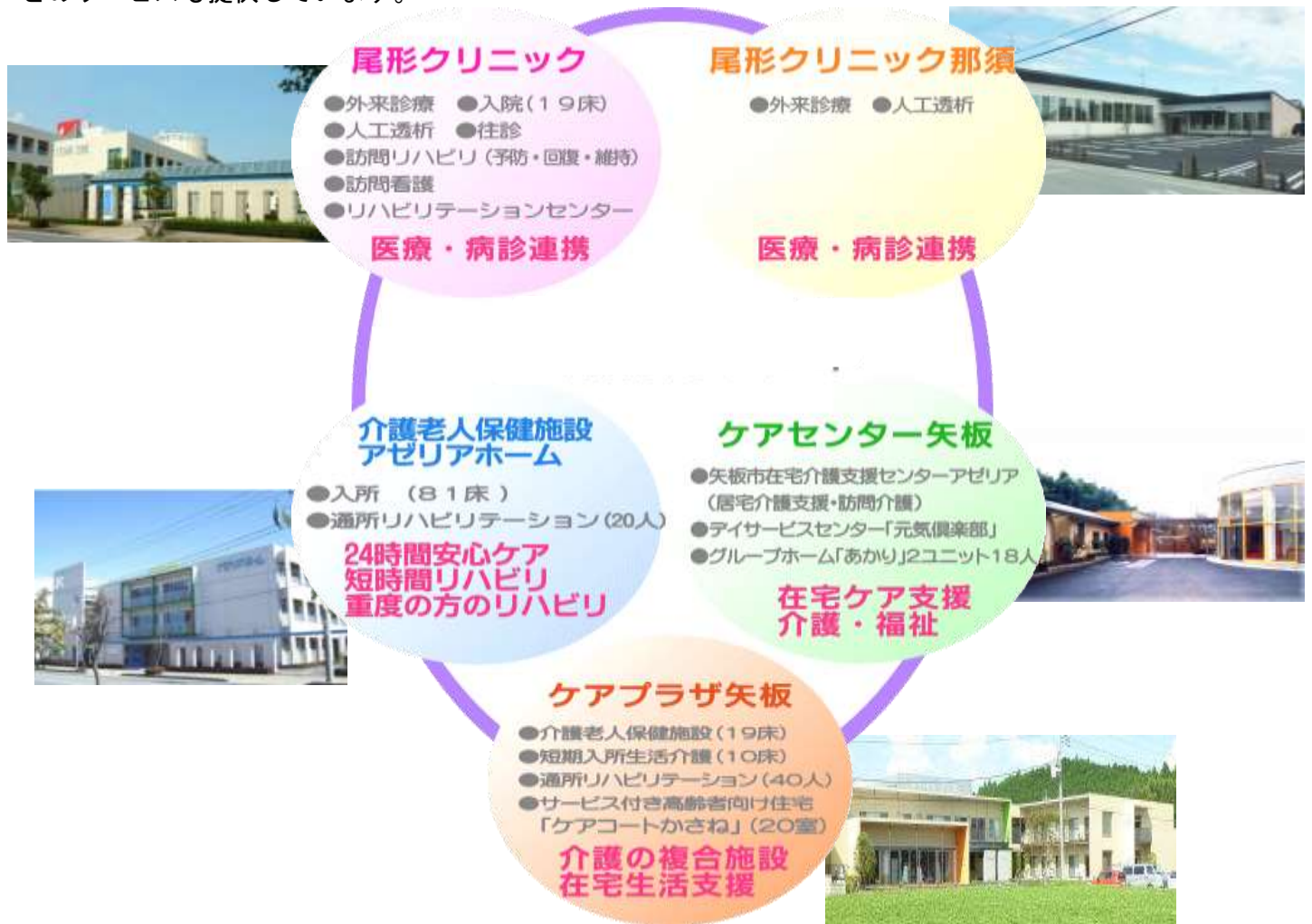


よろしくお願いいたします。 職員一同

「四照花」（ししょうか）は、花びらが4弁の「ヤマボウシ」の別名です。「医療、介護事業を通して四方を明るく照らしたい」との私たちの思いを込めています。

# 為王会グループ 24時間安心サポートについて

医師・看護師をはじめ専門スタッフによるチーム医療を実践しております。各施設が連携して医療・介護・生活などのお悩みの相談に応じ、患者さんとご家族が希望する生活の実現に向けて看護・介護支援などのサービスも提供しています。



## 尾形クリニック(矢板市)と尾形クリニック那須の紹介

### 尾形クリニック(矢板市)

当院は、開設以来一貫して地域の家庭医として、外来、病棟、在宅診療、透析センターなどの部門で患者さんの状態やご希望を伺いながら、必要な医療、看護を実践してまいりました。健康診断やワクチン接種、医療の専門家としての健康相談などにも力を入れております。かかりつけ医として診察・検査を行い、適切な治療と、他の医療機関への紹介もしております。今後も地域の皆様が安心して生活できるよう地域医療の充実に取り組んでまいります。

### 尾形クリニック那須(那須塩原市)

内科、腎臓内科(人工透析＝血液透析療法)、糖尿病内科(人工透析導入の第1位は糖尿病です)を診療科として、平成28年8月に開院しました。那須塩原市とその周辺地域の腎不全の患者さんに、透析療法と合併症治療の一貫した診療を行っております。尾形クリニックとは常に連携して検査等を行い、病気の診断と治療にあたっています。入院治療が必要な時、長期の透析中に起きるシャントトラブルに対しては本院や他医療機関と連携をとり、安心安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。JR那須塩原駅西口から徒歩5分と交通アクセスも良く、プライバシーやアメニティーに配慮した設備で診療を受けていただくことができます。



～地域で人工透析を始めた頃～

東京医科大学を卒業、大学病院で勤務後、故郷の塩谷町に開院して40年、矢板市に移転して30年が過ぎました。その間、一貫して地域医療に関わってきました。一開業医の経験と思いをシリーズでお伝えしたいと思います。

一般に地域の診療所では、風邪や腹痛、高血圧症や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の患者さんを診ています。ところが前触れもなく来院して、放っておくとすぐに命の危険にさらされる患者さんも時にはあります。その場合、自分の手に負えないと判断したら、入院できる二次医療機関や救命治療ができる三次医療機関に紹介します。

1人の患者さんとの遭遇で、その後の開業医としての方向が決まりました。それは、郷里の医院を継いで

半年が過ぎた頃の、1人の慢性腎不全の患者さんとの出会いでした。その方の顔色は茶褐色にくすみ、皮膚は乾き、一目で、慢性腎不全の患者さんと診断できました。この患者さんを救うには人工透析が必要で、しかも継続的に週3回、1回4～5時間の透析を続けなければなりません。

当時、この地域には透析施設はなく、宇都宮市まで通う必要がありました。県北では、日赤(大田原市)と珪肺労災病院(日光市)が人工透析を行っていた程度でした。東京の大学病院で専ら透析医療に関わっており、地域貢献の意味でも遠くまで通わず地域で人工透析ができないかと、透析の器械を1台購入し人工透析を始めました。当時は慢性腎臓病の最後の砦を守るぐらいの気概でした。以来、現在に至るまで透析医療に携わっております。



為王会グループのBLS委員会

医師 佐久間泰弘



**BLS**とは、basic life support (ベーシック ライフ サポート) の頭文字をとったもので、一次救命処置と言われます。突然死の起こる場所は、病院外においては、その4%が職場、2%は医院、5%は老人ホームという報告があります。しかし突然死に至るか、あるいは元気に復帰できるかは、最初の処置で大きく左右されます。誰もが一次救命処置を行えること、そして二次救命処置への連携を図ることが大切です。

そのため、為王会グループの施設で緊急・急変の事態が発生した際には、全ての職員が職種にかかわらずその場の役割を理解した行動が取れることを目標として、平成28年度、BLS委員会を発足させました。委員は、為王会のそれぞれの施設の多職種の人員で構成されています。

① 一次救命処置の習得・再確認

消防署の救命講習会に参加して、一次救命処置を学ぶ機会を設け、講習受講者は修了証の交付を受けています。誰もが処置を行えることが大切ですから、医師、看護師、介護福祉士、事務員など職種に隔たりなく受講しています。

② 緊急時のマニュアルの作成

基本的な救命処置の流れを、なるべく簡潔にして図式化し掲示するようにしました。誰がどこにいても迷わずに最善の対処ができるように、全ての施設において同じものとしています。

また、送迎車を利用中の事態にも迷わず対処できるようなマニュアルも作成しました。

このファイルは今後も随時見直して、より良いものを目指していきます。

③ 緊急時のシミュレーション訓練

それぞれの施設で起こりうる事態を想定し、実際に体を動かし、意見を出し合って訓練しています。

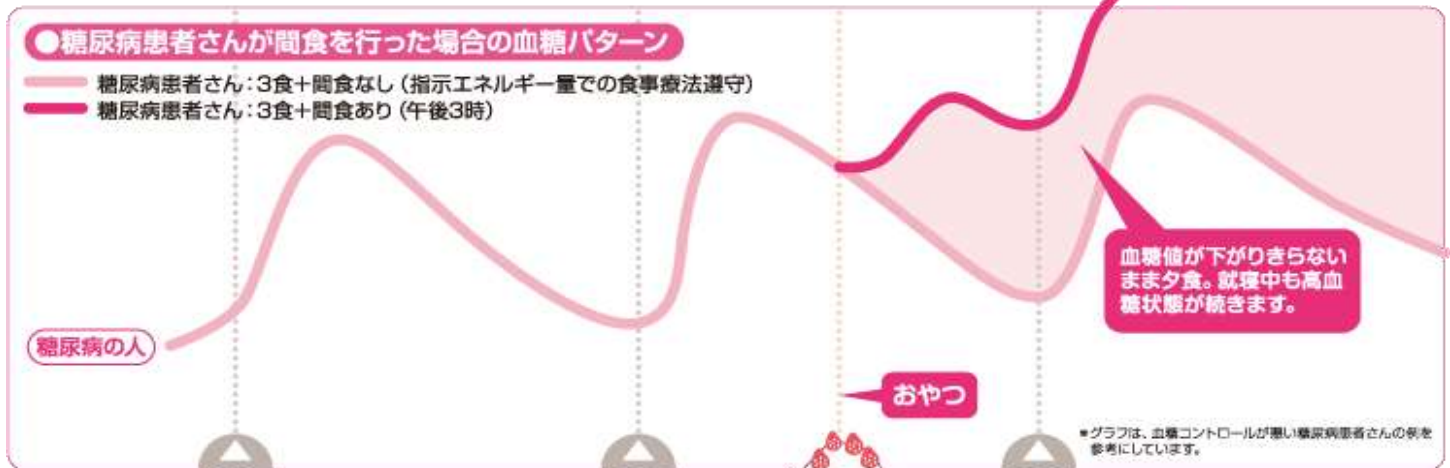


クリニックの外来で栄養指導をしていて、1日3回の食事を規則的に食べていても間食の習慣がある糖尿病の患者さんは比較的多いと感じます。「間食は食べてもいいの?」「どの時間に食べた方がいいの?」と質問を受けることもあります。このような質問の回答を今回は紹介します。糖尿病の患者さんは食事をした後の血糖値が下がりにくい特徴があります。昼食を正午に食べておやつを午後3時に食べるとすると、食事の血糖値が下がりにくい状態でおやつが体に入るため、また血糖値が上がることとなります。上がったままの血糖値は下がるタイミングを失ってしまい次の夕食を迎えることとなります。下のグラフで血糖値の推移を示します。血糖値が高い状態が続くと合併症を発症しやすくなります。

では、間食をするとしたらどの時間に食べたらいいか説明します。

- ① 3回の食事の一部として食べる（デザート感覚で食べると食事の時間と同じなので血糖値が上がるのは1回で済みます）。
  - ② 運動前に食べる（運動でエネルギーを消費できるので血糖値を上げることが防げる）。
- 以上の2点を栄養指導の際はアドバイスとして患者さんに伝えています。

## 間食と血糖値の関係



糖尿病ネットワークより引用

## 第9回仕事事例研究発表会

為王会グループでは、サービスを提供している全施設で、「教育（共育）：ともに学び、成長しよう！」を合言葉に介護・医療の現場における事例を客観的に研究しております。研究結果をグループ内の全てのスタッフが共有し、サービスの質の向上につなげることを目的に、年に2回「仕事事例研究発表会」を開催しています。3月28日、アゼリアホーム内で行いました。

最優秀賞は、アゼリアホームの発表でした。口腔内の継続的な拭き取りと洗浄で清潔に保ち、汚れや口臭を減らす効果がありました。今後も、日々の定期的な殺菌、保湿に努めていくと発表しました。

	部署	テーマ
1	ケアコートかさね	地域に選ばれるサービス付き高齢者向け住宅へ「利用者満足度への取り組み」
2	クリニック：病棟	入院時チェックシートを活用して
3	グループホームあかり	故郷「ニセコ」に帰りたい！
4	透析センター(矢板)	P T A (経皮的血管拡張術)について
5	アゼリアホーム	口腔ケアの実践を通して ～口腔内の乾燥を防ぎ口臭を減らす～







## 介護老人保健施設

入所 定員 81名 個室4室 多床室(3~4人)20室

- JR矢板駅東口近くに位置する便利な施設です。中庭を囲んだ回廊式の建物で、スタッフの見守りにより安全・安心にお過ごしいただけます。
- 診療所(尾形クリニック)に併設し、医師、看護師等が常駐しております。入浴・食事・排泄などの身体介護に加え、24時間体制での医療サポートや終末期のケアも提供しております。
- 医師、歯科医師、看護師、介護士、薬剤師、管理栄養士、リハビリの療士、介護支援専門員など、それぞれの専門職が協力し合い、お一人お一人の心身状況に合ったケア計画を作成し、それに基づいてその方にふさわしい生活を支援させていただいております。
- アゼリア祭り・運動会・お餅つきなどの行事や、季節を通してのお楽しみ食、調理活動などもご家族や地域のボランティアの皆様にご協力をいただきながら実施しております。日々の生活を楽しく過ごしていただくために、イベントなど多数ご用意しております。

フラダンス 



運動会 



 大正琴



中庭でお花植え



卵の殻のにわとり



## 通所リハビリテーション 定員 20名

- リハビリを目的とした通いの施設利用です。
- 退院したばかりで体力に自信がない、家に閉じこもり気味で生活のリズムが乱れがち、リハビリを集中して行いたいという方々にご利用いただいております。
- 短時間コース(2~3時間)、半日コース(4~6時間)、1日コース(6~8時間)に分かれており、ご希望の時間にご利用できます。

## 行事予定

5月

すみれ幼稚園  
歌や遊戯の披露



6月

シルバー大学  
フォークダンス



7月

矢板市立豊田小  
よさこいソーラン







# ケアセンター矢板

矢板市扇町 2-8-34

☎ 0287-44-2108

## 矢板市在宅介護支援センターアゼリア

「あなたが望むあなたらしい人生を真心込めてお手伝いします」

- ケアマネジャーが7人いる施設です。矢板市から委託を受け、高齢者の介護・医療・福祉に関する相談窓口として、いつでも応じられる体制をとっています。
- 公的保険福祉サービスなどの利用申請手続き代行も行います。
- ケアプラン作成のほか、ご利用者が安心して介護サービスを利用できるよう支援します。ケアマネジャーが無料で行います。

ケアマネジャー



## デイサービス元気倶楽部 定員 30名

「来る人には楽しみを 帰る人には喜びを」

- ゆったりとした入浴、おいしい食事、楽しい仲間との語り、リハビリや趣味の時間など、お一人お一人に満足いただけるようサービスいたします。
- リハビリは運動療法士、看護師が行います。
- 地域の人々との触れ合いの場、喫茶室としてのコミュニティールームを活用し、開かれた施設として地域との交流を大切にします。
- お試し利用があります。

元気倶楽部の利用者さん



## グループホームあかり 定員 1棟9名（2棟18名）

「普通の暮らしを支えます」

- 認知症の高齢の方が、専門のケアスタッフと共に日々を送ることで、ご家族との関係も深めることができます。
- 温かい家庭的な雰囲気の中でその方の思いや暮らし方を大切にします。

施設外観  
アイドル犬あかりちゃん



ホームヘルパー



## 訪問介護 矢板市在宅介護支援センターアゼリア

「あなたが望むあなたらしい人生を真心込めてお手伝いします」

- ホームヘルパーがご家庭を訪問し、身体介護や生活援助を行います。

## 行事予定

### デイサービス元気倶楽部

5月 遠足

6月 外出レクリエーション

毎月 おやつ作り、おやつバイキング

元気喫茶



### グループホームあかり

5月 つつじ・藤 見学

外食、かしわ餅作り

6月 紫陽花・ポピー見学

ボランティアの皆様・・・尺八、山和会、マジック&ハーモニカ



# ケアプラザ矢板

矢板市中 2011-4

☎ 0287-44-2011

## サテライト型老人保健施設 「介護老人保健施設かさね」

定員 19人 全室個室

- 定員が少なくゆとりをもって介護を行うことができるため、生活の質の向上を図ることができます。
- 「地域住民の生活が見える“生活感”のある施設」を目指します。

イチゴの苗を植えました



## 通所リハビリテーション

「かさね生活（いきいき）館」 定員 40人

- オーダーメイドのリハビリテーションで個別性を重視します。
- リハビリスタッフ、看護師、介護士、マッサージ師のチームワークで楽しいリハビリテーションを目指します。
- 外出リハビリとしてスーパーへ買物や、道の駅に外出に出かけています。

生き活き(いきいき)農園



デイのみんなで壁画作成



## 短期入所生活介護

「ショートステイかさね」 定員 10人（2人部屋5室）

- 利用者さん、ご家族の信頼を得る温かい介護を提供します。
- 在宅生活維持支援施設として、短期間での定期的なご利用などができます。

居室の様子



## サービス付き高齢者向け住宅

「ケアコートかさね」 定員 20人 全室個室  
～第二の住まいで、いつまでも元気な暮らし～

- 利用者さんとスタッフが心を“かさね”合わせるケアを目指します。  
※おためし利用もできますので、お気軽にご相談ください。

かさねちゃん



ホームページでブログを  
随時更新中！

「ケアプラザ」で検索してね！

尾形クリニックに勤めて15年になります。外来には、私を含めて看護師4名、臨床検査技師1名、放射線技師1名が在籍しています。外来は各診療科業務のほか、処置室、内視鏡検査があります。幅広い知識と専門性を要求されると共に、個人の能力を発揮できる部署でもあります。限られた時間の中でよりよい人間関係を築き、これまでの看護師としての経験や人生経験を活かして、常に患者さんの立場で考え、行動できるように心掛けています。

皆様からのご意見・ご指摘は今後の改善に向け真摯に受け止め、参考にさせていただきますので、お気づきの点は遠慮なくお声掛けください。

尾形クリニックでは、日々の外来診療の他に、**訪問診療（在宅診療）**という診療体制を設けています。

訪問診療は、定期的な通院が困難な患者さんのお宅に医師が定期的に伺い、計画的に健康管理を行うものです。私たち外来看護師も同行し、診療の補助をさせていただいております。

ご希望の方は、外来もしくは地域医療連携室へご相談ください。



## オレンジカフェ だより

いつも矢板市末広町の「介護ショップ エポック」内にあるオレンジカフェにおいで下さり、ありがとうございます。

今年度も「誰でも気軽に集える地域の憩いの場所」、「街なか健康相談室」として、お菓子やお飲み物、楽しいプログラムを用意してお待ちしております。

おいしいコーヒーやお茶（無料）を楽しみながら医師やケアマネジャーなどのスタッフに健康・医療・介護の相談もできます。どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。



- 開催場所：介護ショップ エポック  
矢板市末広町 11-6 ☎0287-44-2053
- 開催日時：毎週水・木・金曜 9:00~12:00 年末年始・祝日を除く

お問い合わせは、  
☎ 0287-43-2230  
尾形クリニック（阿部）まで

## 編集後記

今号より為王会グループ各施設の広報紙を統合して、新しく広報紙「四照花」としてお届けすることになりました。新しい広報委員会のメンバーが取材、編集に努めて、この度の発行となりました。これまで同様、新「四照花」をご愛読いただき、ご意見をいただくと、私たちにとって大きな励みとなります。今号を発行するにあたってご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

広報委員（関谷朝美 漆原一暁 軽部未起 山口 俊）

